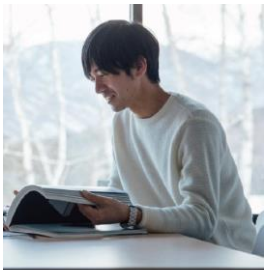
R3 上田未来会議　#1【まとめ】

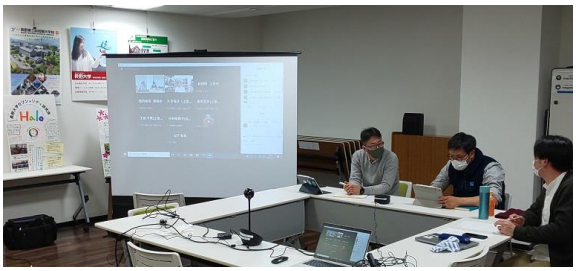
日　　時　　令和 4 年 1 月 14 日（金）19：00～21：00
配信会場　　まちなかキャンパスうえだ（zoom オンライン形式）
参加人数　　18 名（講師・コーディネーター含む）

【オンラインによる講演…約 50 分】

ヨソ者・若者と紡ぐ若者のミライ　～長野県「富士見 森のオフィス」の実践～

講　　師：津田 賀央　氏（Route Design 合同会社　代表）
ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：高田 正哉　氏（福島県磐梯町教育委員会／上田市社会教育委員）





・長野県富士見町で新しい働き方、まちづくりのデザインを実践する津田さんとのオンラインによる対話を通じ、移住や働く場所づくり、リモートワークやコワーキングスペースの考え方などの情報を共有するなど、上田市内での実践につなげることを目的として会議を開催した。
・長野大学の学生をはじめ、上田市内でコワーキングスペースの立ち上げを検討している参加者との質疑応答の時間により、それぞれの考え方を整理し、理解を深める機会とすることができた。

講演内容等：組織を越えた“共同体”的働き方のデザイン

○ハイブリットなワークスタイル
　どのように働きたいか、どのように生きたいかを考え、都会と自然を行き来する形で、新しいことをするために「２拠点生活」を実践。
○「富士見　森のオフィス」…2015 年 12 月に立ち上げ
　町の人口減少対策の一環で、リモートワークが可能な人の移住促進のための施設として富士見町が立ち上げ、役場と共同して運営している。
○さまざまなプロジェクトの創出
　設立以降の５年間で 140 件ほどのプロジェクトが生まれ、マルシェの開催や商品開発など、森のオフィス利用者や地域住民との交流の中で企画が多く生まれている。
○森のオフィスで育まれた「共同体的な働き方」
　異なるスキルやバックグランドを持つ者同士によるつながりやコミュニティが形成されているため、興味あるコミュニティに積極的に身を投じ、共同体内での関係性を深めることで、様々な仕事やプロジェクトが生み出される仕組みとなっている。

R3 上田未来会議　#1【まとめ】

＜これからのキャリア形成を考える学生のみなさんへ＞

①単一組織ではなく、複数のコミュニティをまたいだ人的ネットワークの形成
⇒「興味関心と社会的接点」幅広い人的ネットワークが重要である。

②連続的な経験だけではなく、非連続的な経験の蓄積によるスキルセットの獲得
⇒所属組織から飛び出し、「別軸の体験を得る」必要がある。

③お金ではなく、信頼をベースとした資本の形成
⇒「利己的&利他的な行い」…自分の関心に基づいて（利己的）動きながら、関わりを持つ一人ひとりのためを思って（利他的）動くことが大切である。

【講師とのオンラインによる意見交換…約 50 分】

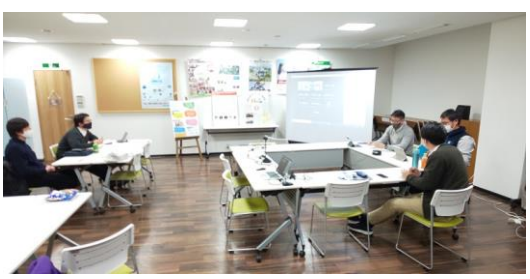
〇森のオフィスとして、住民の雇用の創出につながるような事業はあるか？
→仕事の斡旋などはしていないが、それぞれのスキルを持った人が多く集まるため、「森の教室」としてノウハウを教え合う場の開催などを実践している。

〇会社を経営するうえでの原動力となるものは何か？
→自分の興味が湧く新しいこと、誰かのためになることや未来につながるものなど、世界観を創り上げていくことが原動力（モチベーション）になっている。

〇企画実行に際し、場所（コミュニティ）が無い場合、どのように人を集めれば良いか？
→興味を持ってもらえるような共通軸、反応ある人に会いに行くなど、フットワーク軽く関係を深めていくことが大事だと考えている。

〇サテライトオフィスを持続していくため、運営面でどのような配慮が必要か？
→信頼や価値を築いていくことが重要で、困っていることに対し、問題を解決できるよう、自己実現を後押しできるような仕組みづくりも必要である。

〇森のオフィスを運営して、過去の困りごとや失敗経験などあるか？
→コミュニティクラッシャーのような人たちや成功を妬む人などもいてメンタルが削られることもあるが、それ以上に、場を支えてくれる人や助けを求めてくる人のために何ができるかを考え、楽しむことを大事にしている。

総括（講師・ファシリテーターによる全体まとめ）

・コワーキングスペースは単なる不動産ではなく「ともに働く」という文化であり、場を共有しながら、自然発生的に「つながり」が生まれていくものと考えている。
・人との交流など関わりを持ち、ともに学び、創られたものを尊敬することを通じて、森のオフィスの取組のように「言葉を生み出し続ける」ことが大切だと思う。
・「働き方」で重要なことは場所ではなく、「誰とつながって信頼を得るか」だと考える。
・上田という地域として、面白い取組が生まれることを楽しみに期待している。